

*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 40 No. 4
August 2015**

毒理学ニュース

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

第 18 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	41
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書	43
認定試験受験資格のための評点表	45
第 43 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 1 報)	47
2016 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領	48
2016 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領	49
2016 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領	49
第 42 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	50
第 54 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告①	51
第 54 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告②	52
一般社団法人 日本毒性学会の事務局変更のお知らせ	53

その他のお知らせ

CBI 学会 2015 年大会のご案内	54
第 22 回日本免疫毒性学会学術年会 (JSIT2015)	54
第 55 回 日本臨床化学会 年次学術集会	55
日本薬物動態学会第 30 回年会	56

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

入会案内／変更手続き

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

第18回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験

日本毒性学会

教育委員会委員長

務台 衛

認定試験小委員会委員長

久米 英介

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は毒性学ニュースまたはホームページに掲載の「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」を熟読の上、出願して下さい。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規程に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の10日前までに受験票をご本人宛送付いたします。

試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

1. 日 時

2015年10月4日(日) (9:15～16:30)

2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス
(東京都品川区旗の台1-5-8)

* 東急池上線・大井町線

旗の台駅東口下車 徒歩5分

3. 出願期間

2015年7月1日(水)～8月14日(金) (必着)

4. 出願書類

1) 願書と受験者確認票

2) 写真 2枚(縦3.5cm×横3cm)

(願書と受験者確認票の所定欄に貼付)

3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

・ 会員歴：出願時にJSOTの会員であること

・ 研究歴

詳細は「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」をご覧ください。出願書類は記録の残るもの(書留、信書便等)でお送り下さい。

5. 受験料

30,000円(下記の郵便振替口座にお振込の上、払込票のコピーを出願書類に同封下さい)

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：一般社団法人日本毒性学会

* 領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証に代えさせていただきます。

(通信欄に会員番号を明記下さい)

6. 出願書類送付先・問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局

認定試験小委員会

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30

イタリア文化会館ビル8階

(株)メディカルトリビューン内

TEL：03-3239-7264 / FAX：03-3239-7225

Email：jsothq@jsot.jp

第18回日本毒性学会 認定トキシコロジスト認定試験受験者確認票

写真添付欄

受験番号

氏 名

(氏名をご記入下さい)

日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書

年 月 日提出

ふりがな

氏 名： _____

会員番号： _____

生年月日：西暦 年 月 日

所属機関： _____

職 名： _____

学 歴：

西暦 年 高等学校 科卒業

西暦 年 大学 学部 学科卒業

西暦 年 大学院 研究科 課程修了

職 歴／毒性研究・研究歴（種類，期間）：

受験票送付先：〒

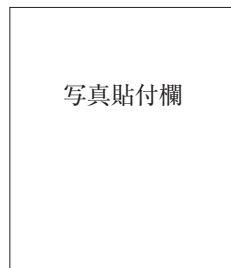
住 所

電話：

FAX：

E-mail：

（お持ちの方は必ずご記入下さい）



切
り
取
り
線

認定試験受験資格のための評点表

「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」の付表（脚注に注意）を参考に自己採点の上，下表（評点表）の該当箇所に評点を記入して下さい。

なお，下表中の論文についてはそのコピーを，学会等参加については参加証のコピーを，学会等発表については学会開催年を付記した講演要旨のコピーを，また，講習会については参加証のコピーを，それぞれ証明資料として添付して下さい。

（評点表にも忘れずに氏名と所属機関をご記入下さい）

氏名： _____ 所属機関： _____

種別	評点項目	評点
論文	毒性学関連論文 ^{1), 2)}	
学会活動	JSOT 学術年会	発表 ¹⁾
		参加
	毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	発表 ¹⁾
		参加
講習会等	基礎教育講習会	
	JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	
合計		

- 1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については10点，それ以外の共同発表の場合は5点とする。
- 2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- 3) IUTOX 定期総会（ICT），ASIATOX 定期総会，SOT 年会，EUROTOX 年会，日本安全性薬理研究会，日本衛生学会，日本環境変異原学会，日本産業衛生学会，日本獣医学会，日本実験動物学会，日本製薬医学会，日本先天異常学会，日本中毒学会，日本毒性病理学会，日本内分泌攪乱化学物質学会，日本免疫毒性学会，日本薬学会，日本薬物動態学会，日本薬理学会
- 4) JSOT 生涯教育講習会等

切り取り線

第43回日本毒性学会学術年会のご案内（第1報）

1. 会期

平成28年(2016年)6月29日(水)～7月1日(金)

2. 会場

ウィンクあいち [愛知県産業労働センター]
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38
TEL: 052-571-6131
<http://www.winc-aichi.jp/>

3. テーマ

「健康増進に貢献する毒性学」

4. 年会長

佐藤 雅彦 (愛知学院大学薬学部 教授)

5. 企画委員 (敬称略・五十音順)

青木 豊彦 (株)サンプラネット)
青木 康展 (国立環境研究所)
天野 幸紀 (興和(株))
石塚真由美 (北海道大学)
上野 光一 (千葉大学)
小椋 康光 (千葉大学)
鍛冶 利幸 (東京理科大学)
菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)
北嶋 聡 (国立医薬品食品衛生研究所)
清宮 健一 (兵庫医療大学)
熊谷 嘉人 (筑波大学)
神野 透人 (名城大学)
遠山 千春 (筑波大学)
苗代 一郎 (医薬品医療機器総合機構)
中川 一平 (杏林製薬(株))
中村 和市 (北里大学)
永沼 章 (東北大学)
久田 茂 (あすか製薬(株))
姫野誠一郎 (徳島文理大学)
広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所)
堀井 郁夫 (ファイザー(株), 昭和大学)
務台 衛 (田辺三菱製薬(株))
山田 久陽 (大正製薬(株))
横井 毅 (名古屋大学)
吉田 武美 (薬剤師認定制度認証機構)
吉田 緑 (食品安全委員会)
吉成 浩一 (静岡県立大学)

6. 一般演題募集

一般演題 (口演およびポスターでの発表) を2015年12月18日から受け付ける予定です。
発表は会員のみとなりますので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。
日本毒性学会ホームページ: <http://www.jsot.jp/>

7. 優秀研究発表賞

2016年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集します。

8. 特別企画

年会長招待講演, 特別講演, 教育講演, シンポジウム, ワークショップ, 市民公開セミナーを企画予定です。

9. ランチョンセミナー等の募集

ランチョンセミナースポンサー, 広告掲載, 展示出展を募集します。詳細については追ってご案内します。

10. 参加登録と演題申込

学術年会ホームページからのオンライン登録となります。
詳細についてはホームページをご覧ください。
年会ホームページ: <http://jsot2016.jp/>

11. 年会事務局

〒464-8650 名古屋市千種区楠元町1-100
愛知学院大学薬学部 衛生薬学講座
事務局長: 李 辰竜
事務局次長: 徳本 真紀
TEL: 052-757-6791 FAX: 052-757-6799
E-mail: secretariat@jsot2016.jp

2016 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

候補者の資格：日本毒性学会非学会員。

推薦者の資格：日本毒性学会理事 1 名。

表彰：授賞者数は毎年, 最大 1 名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（或いは代理人）は日本毒性学会学術年会にて受賞講演（15 分程度）を行う。

候補者の推薦：推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

1. 推薦書（候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（1,000 字以内）
3. 特別賞の対象となる業績目録：原著論文, 総説・著書, 主催, 発表等

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2015 年 12 月 31 日（木）

2016 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に 10 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 65 歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年 1 名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2016 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2016 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（http://www.jsot.jp/activity/award_society.html）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000 字以内）
3. 学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去 5 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2015 年 12 月 31 日（木）

2016 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に 3 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 40 歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年 3 名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2016 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2016 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（http://www.jsot.jp/activity/award_encourage.html）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000 字以内）
3. 奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去 3 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2015 年 12 月 31 日（木）

第 42 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 42 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（1 部）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 42 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-1-30
イタリア文化会館ビル 8F
株式会社メディカルトリビューン内

TEL：03-3239-7264 FAX：03-3239-7225

E-mail：jsotq@jsot.jp

第54回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告① - Continuing Education Course 教育コースに参加して -

株式会社ヤクルト本社 中央研究所 鈴木 倫



日本毒性学会教育委員会が企画する SOT 派遣事業の一環として、第54回 SOT 学術年会の教育コース「Safety Evaluation of CNS Administered Therapeutics - Study Design, Dose Routes, and Data Interpretation」および「Skeletal System Endocrinology and Toxicology」を受講させていただきました。

CNS のコースでは、中枢神経系の組織学・生理学の概要、幼若非ヒト霊長類における脳脊髄液採取に関する事例、中枢神経実質への薬物送達、中枢投与における脳の病理組織学的評価、非臨床試験データの臨床への外挿について講演が行われました。Skeletal System のコースでは、骨の生理学、骨の内分泌、非臨床試験における骨の評価、骨と他のシステムの関係について講演が行われました。どちらのコースも解剖学あるいは生理学の基本的な解説が最初にあり、次に各論に入っていくため、理解しやすい構成となっていました。

教育コースを受講して印象深かったことは、教育コース終了後に、演者に質問をした際の対応についてです。ある実験手技について質問をしたのですが、「私には経験がないが、彼なら知っているかもしれない。」と、そばでディスカッションをしていた研究者に聞いてくれました。その研究者もその手技を実施したことがなかったのですが、次々と経験がありそうな別の研究者に聞いてくれました。教育コースということもあったのかもしれませんが、拙い英語だからとか、女性だからとか、若いからということはなく、他の研究者に対して教育・指導し、ざっくばらんに情報交換できる土壌があることが感じられました。会場の広さもさることながら、老若男女、世界各国の様々な立場の研究者が参加している SOT のスケールを感じることができる出来事でした。

今回 SOT に派遣していただき、学術的な情報収集に加え非常に貴重な経験をすることができました。学会員の皆様にも SOT の教育コース派遣に応募して、刺激を受けるチャンスを得ていただきたいと思います。最後に、このような機会を与えて下さった日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様、また、SOT 参加にあたり社内業務のフォローしてくれた関係者の方々に、心よりお礼を申し上げます。



第54回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告② — 毒性評価の新たな技術 —

愛知学院大学薬学部 李 辰竜



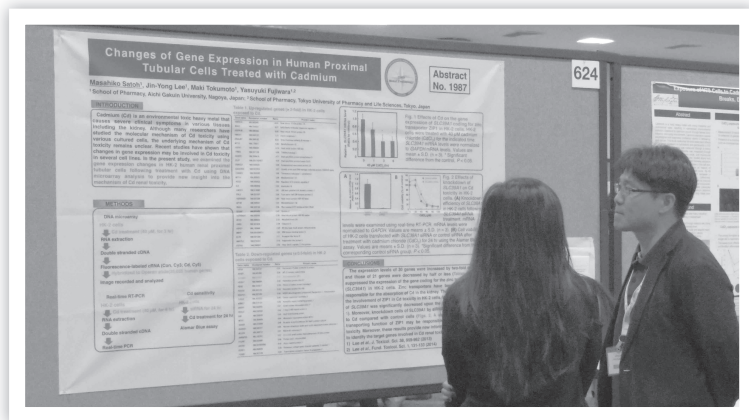
第54回米国毒性学会 (Society of Toxicology, SOT) 学術年会は、2015年3月22日から26日まで、カリフォルニア州サンディエゴのサンディエゴコンベンションセンターで開催された。私は日本毒性学会のSOT教育コース派遣事業の一環として、「毒性評価の新たな技術」という教育コース「The Future of Developmental and Reproductive Toxicology - Building a Bridge to the Animal Free Zone」および「Is Synthetic Biology the Future of

Toxicology?」の講演会に参加させて頂いた。

前者のコースは、生殖発生毒性研究の新たな評価系を紹介する講演で、(1)線虫モデル動物 *C. elegans* を用いた生殖細胞毒性研究、(2)生殖発生毒性研究における代替脊椎動物モデルとしての zebrafish の利用、(3)奇形発生研究におけるマウス由来胚細胞、zebrafish 並びにラットの胚の複合利用、(4)ソフトウェアを用いた可視化胚モデルの生殖発生毒性研究への利用の4項目で構成されていた。これらの講演では、今後の生殖発生毒性研究の発展に寄与できるユニークな評価法や実験動物の代替実験系などが紹介された。

後者では、総合的な生物学ツールを用いた未来志向的毒性学研究に関する講演が行われた。今までの単細胞層を用いた *in vitro* 実験系の限界を乗り越えて、組織の一部を chip に埋め込んだ organ-on-a-chip を用いた新たな *in vitro* 実験系や最近話題の3-Dプリンターを応用した実験系などが紹介された。これらの新たな実験系は生物学領域の技術のみでは構築されないもので、理工学的なサポートを必要としている。また、これらの実験系は、臓器内の細胞間相互作用や臓器周辺のダイナミックな環境も考慮したものであり、現在の *in vitro* と *in vivo* のギャップを補う系として期待される。

私は、カドミウムをはじめとした有害重金属の毒性発現機構を研究しており、本教育コースで学んだ内容は、新たな毒性評価系の考案など今後の研究活動に非常に有益であった。最後に、今回のSOT教育コースに参加する機会を与えて頂いた日本毒性学会に深く感謝いたします。



学会事務局の変更

一般社団法人日本毒性学会
 会員各位

一般社団法人 日本毒性学会の事務局変更のお知らせ

一般社団法人 日本毒性学会
 理事長 眞鍋 淳

2014年1月より、当学会の事務局を(株)メディカルトリビューン(MT)に置き、学会事務業務をお願いしてききましたが、同年9月の同社の学会事務委託業務からの撤退表明を受け、MTに代わる学会事務局の選定作業を行ってまいりました。いくつかの候補について検討を重ねた結果、本年2月の持ち回り理事会において、(株)毎日学術フォーラム(MAF)へ変更することが承認されました。これを受け、事務局変更に関連する契約書を本年4月1日付けで取り交わし、現在、MT、MAFと当学会の三者で具体的な業務の引継ぎ作業を進めております。

会員の皆様には、度重なる学会事務局変更でご迷惑をおかけしますが、学会業務に支障を来さぬように、万全の対応を持って進めております。尚、新事務局への移行時期は、2015年11月1日を予定しております。

学会事務局の変更に伴い、以下の変更が生じますので、会員の皆様にはご承知おき下さるようお願い申し上げます。

1. 事務局の住所・電話番号の変更

2015年11月1日からの学会事務局の連絡先は以下の通りです。

一般社団法人 日本毒性学会
 〒100-0003
 東京都千代田区一ツ橋1-1-1パレスサイドビル
 (株)毎日学術フォーラム
 TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555
 E-mail : jsothq@jsot.jp

尚、今回の事務局変更に伴う学会事務局のメールアドレスおよび、学会ホームページのアドレス変更はない予定です。

2. 会員管理システムの変更

会員管理システムも変更となります。新たなシステムへの移行作業の時期等の詳細に関しましては、判明次第、改めてご連絡いたします。

会員の皆様にはご不便をおかけ致しますが、今後の学会のより円滑な運営に務めて参りますので、ご理解ご協力の程、宜しく願い申し上げます。

以 上

その他のお知らせ

CBI 学会 2015 年大会のご案内 「創薬のオープンイノベーション - 新領域と in silico の接点 - iPS 創薬・アカデミア創薬・ ビッグデータ」

◆大会情報

大会ホームページ

<http://cbi-society.org/taikai/taikai15/index.html>

日 時 2015 年 10 月 27 日 (火) - 29 日 (木)

会 場 タワーホール船堀 (東京都江戸川区船堀 4-1-1)

大会長 堀内 正 (慶應義塾大学)

大会実行委員長 片倉 晋一 (第一三共 RD ノバーレ (株))

◆ポスター発表

演題区分・投稿の流れなど

<http://cbi-society.org/taikai/taikai15/poster.html>

投稿受付開始 2015 年 5 月 7 日 (木)

投稿募集分野

- 1) 分子認識と分子計算
- 2) インシリコ創薬
- 3) バイオインフォマティクスとその医学応用
- 4) 医薬品研究と ADMET
- 5) 上記に属さない先進的研究

◆プログラム概要

〈大会長講演、プレナリー講演、招待講演〉

堀内 正 (慶應義塾大学)

福田 恵一 (慶應義塾大学)

高橋 良輔 (京都大学)

米田 悦啓 (医薬基盤・健康・栄養研究所)

山本 貴史 (東京大学 TLO)

北西 由武 (塩野義製薬 (株))

田中 譲 (北海道大学)

水口 裕之 (大阪大学)

妻木 範行 (京都大学 iPS 細胞研究所)

浅見 麻乃 (武田薬品工業 (株))

片岡 徹 (神戸大学)

松本 俊二 (富士通 (株) 未来医療開発センター)

奥野 恭史 (京都大学)

船津 公人 (東京大学)

鈴木 蘭美 (エーザイ (株))

〈市民講座『地域医療のイノベーションと ICT』〉

石川 智久 (NPO 法人地方再興・個別化医療支援)

塚原 祐輔 ((株) 理研ジェネシス)

北岡 有喜 (国立病院機構・京都医療センター医療情報部)

岡崎 光洋 (クロスケアフィールド (株))

〈科研費新学術領域「分子ロボティクス」公開シンポジウム〉

◆参加登録期間と参加費

登録期間 2015 年 5 月 7 日 (木) ~ 2015 年 10 月 16 日 (金)

早期登録参加費 (9 月 30 日まで)

個人会員	12,000 円
一般 (非会員)	20,000 円
学生会員	2,000 円
学生非会員	5,000 円

参加費 (10 月 1 日以降)

個人会員	17,000 円
一般 (非会員)	25,000 円
学生会員	5,000 円
学生非会員	5,000 円

◆問合わせ先

CBI 学会 2015 年大会事務局

E-mail: cbi2015@cbi-society.org

<http://cbi-society.org/taikai/taikai15/index.html>

第 22 回日本免疫毒性学会学術年会 (JSIT2015)

期 日 平成 27 年 9 月 10 日 (木) ~ 11 日 (金)

会 場 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール
〒606-8501 京都市左京区吉田本町

アクセス

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_y.htm

バスをご利用の方は、京大正門前の下車が便利です。

テーマ 「免疫毒性の新たな視点—毒性影響とかく乱影響—」

プログラム

【特別講演】

「The Influence of Early Immune Signaling and the Microbiome on Immunomodulatory Responses following Exposure to the Antimicrobial Triclosan」

Dr. Stacey Anderson

Team Leader, Immunotoxicology and Hazard Identification laboratory

Allergen and Clinical Immunology Branch, Health Effects Laboratory Division

National Institute for Occupational Safety and Health

【教育講演】

「細胞がストレスを感じる仕組みと疾患」

一條 秀憲 先生 (東京大学 薬学研究科 教授)

「環境微粒子とアレルギー性鼻炎：モデルマウスを用いた増悪メカニズムの解明と治療技術の開発」

善本 知広 先生 (兵庫医科大学 先端医学研究所 教授)

【シンポジウム】

‘毒性’影響から‘かく乱’影響へ

- 市瀬 孝道 先生 (大分県立看護科学大学 看護学部 教授)
- 小池 英子 先生 (国立環境研究所 環境健康研究センター 主任研究員)
- 柳澤 利枝 先生 (国立環境研究所 環境健康研究センター 主任研究員)
- 伏木 信次 先生 (京都府立医科大学 医学研究科 教授)
- 井口 泰泉 先生 (基礎生物学研究所 環境生物学領域 教授)

【ワークショップ】

免疫影響の評価法について

【ランチョンセミナー】

【機器展示】

賞 年会において優秀な一般演題を発表した会員に対し、「年会賞」、並びに「学生・若手優秀発表賞」を贈呈する予定です。

発表形式 PC プロジェクターによる口頭発表とポスター発表の予定です。

演題募集期間

平成 27 年 4 月 20 日 (月) ~ 6 月 26 日 (金) (予定)

年会長 高野 裕久

京都大学大学院工学研究科 都市環境工学専攻
環境衛生学講座・教授

事務局 担当 本田 晶子

第 22 回日本免疫毒性学会学術年会事務局
京都大学大学院工学研究科 都市環境工学専攻
環境衛生学講座内
〒 615-8540 京都市西京区京都大学桂
電話：075-383-3342
Fax：075-383-3344
Email：jsit22-office@health.env.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <http://health.env.kyoto-u.ac.jp/jsit22-office>
(現在作成中です)

**第 55 回 日本臨床化学会 年次学術集会
のお知らせ**

学術集会長 岩谷 良則

(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体情報科学)

期 間 2015 年 10 月 30 日 (金) ~ 11 月 1 日 (日)

会 場 大阪大学 吹田キャンパス コンベンションセンター
〒 565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1

テーマ 臨床化学の未来を拓く

参加費

一般参加者	10,000 円
大学院生	2,000 円 (要 学生証提示)
学部学生	無 料 (要 学生証提示)

懇親会

10 月 31 日 (土) 18:00 ~ 20:00

2015 年 7 月にオープンするコンベンションセンター隣の
福利厚生施設

懇親会費 一般参加者 2,000 円, 学生 1,000 円

プログラム

◇特別講演 1

「統計・情報処理技術の活用で変わる検査診断学の近未来」
演者：市原 清志
(山口大学大学院医学系研究科保健学専攻)

◇特別講演 2

「オミックス科学から見た未来の臨床化学」
演者：林崎 良英 (理化学研究所)

◇教育講演 1

「メタボロミクスと臨床化学」
演者：福崎英一郎 (大阪大学大学院工学研究科)

◇教育講演 2

「分泌型マイクロ RNA の医療応用への期待と課題」
演者：河原 行郎 (大阪大学大学院医学研究科)

◇教育講演 3

「ビッグデータ時代の臨床化学」
演者：瀬々 潤 (産総研ゲノム情報研究センター)

◇教育講演 4

「脂質代謝・動脈硬化と臨床化学」
演者：木原 進士 (大阪大学大学院医学系研究科)

◇シンポジウム 1

「メインシンポジウム」
— 臨床化学の未来を拓く —

◇シンポジウム 2

「日本毒性学会共催シンポジウム」
— 安全性評価における臨床化学の未来 —

◇シンポジウム 3

「日本医用マススペクトル学会共催シンポジウム」
— 最先端質量分析-マスプロファイリングからマスマイージングへ —

◇シンポジウム 4

「日本遺伝子診療学会共催シンポジウム」

◇企業シンポジウム

— 診断と治療の未来を探る~先制診断/医療とバイオバンク —

◇臨床化学アカデミー

— 日常検査で見出された検査異常の解析 —

◇若手シンポジウム

◇平成 27 年度 第 1 回臨床化学・免疫化学精度保証管理技師
指定講習会

◇ランチョンセミナー、イブニングセミナー、等

第 55 回日本臨床化学会 年次学術集会 運営事務局

株式会社日本旅行 西日本 MICE 営業部
〒 530-0001 大阪府大阪市北区梅田 1-11-4
大阪駅前第 4 ビル 5 階
TEL : 06-6342-0212
FAX : 06-6342-0214
E-mail : jsc_55@nta.co.jp

日本薬物動態学会第 30 回年会概要

(平成 27 年 8 月現在)

会 期 平成 27 年 (2015 年) 11 月 12 日 (木) ~ 14 日 (土)

会 場 タワーホール船堀
〒 134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1
<http://www.towerhall.jp>
Tel : 03-4676-2111

テーマ 「新しい世代の薬物動態研究」

年会長 横井 毅 (名古屋大学大学院医学系研究科)

プログラム内容 (抜粋)

- ・ 特別講演
- ・ 教育講演
- ・ シンポジウム (18 セッション)
- ・ 学生主催シンポジウム (仮)
- ・ 一般口演, ポスター 他

参加登録

- ・ 事前参加登録期間 2015 年 4 月 30 日 (木) ~ 9 月 24 日 (木)

参加費

- ・ 事前参加費

会員・後援学会会員	10,000 円
JSSX 学生会員 (大学院)	6,000 円
(学部生)	無 料
非会員および非会員 (学生)	13,000 円

※後援学会の会員につきましても事前参加登録の場合のみ
日本薬物動態学会会員と同額でお申し込みいただけます。
会員番号欄に 88888 をご入力ください

- ・ 当日参加費

会員	12,000 円
JSSX 学生会員 (大学院)	8,000 円
(学部生)	無 料
非会員および非会員 (学生)・後援学会会員	15,000 円

懇親会

- ・ 日 時 : 11 月 13 日 (金) 19 : 00 ~
- ・ 場 所 : C 会場 (タワーホール船堀 2F 桃源・福寿)
- ・ 事前参加費

一 般	8,000 円
学 生	5,000 円
- ・ 当日参加費

一 般	10,000 円
学 生	8,000 円

ミキサー

- ・ 日 時 : 11 月 13 日 (金) 19 : 00 ~
- ・ 場 所 : D 会場 (タワーホール船堀 2F 平安)
- ・ 事前および当日参加費

学 生	3,000 円
-----	---------

 ※学生のみ参加可能です。(会員・非会員は問いません)

お問合せ先

年会事務局 名古屋大学大学院医学系研究科
〒 466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

運営事務局

〒 532-0004 大阪市淀川区西宮原 1-8-29
テラサキ第 2 ビル (株) コネット内
E-mail : jssx30@conet-cap.jp
Tel : 06-6398-5745
Fax : 06-6398-5746

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

昭和51年 4月 1日制定
平成17年 8月 1日改定
平成24年10月 1日改定
平成26年 7月 1日改定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性に関する重要な知見や発現機構についての研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article : 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter : 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象などを掲載する。
- (3) Review 及び Minireview : 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を一般的に紹介する総説をReviewとし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説をMinireviewとする。Reviewは頁数に制限を設けないが, Minireviewは刷り上がり3頁以内とする。
- (4) Special Issue : 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌のSpecial Issueとして発行することができる(原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4ファイルに上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁(表題ページ)に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title(スペースを含めて70文字以内), カテゴリー(下記3参照)を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mailアドレス(必須)を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)及び住所を記入する。
- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Resultsなどのサブタイトルは付けない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。

- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を()内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。 μm , mm, cm, m, μg , mg, g, kg, μL , mL, L, mmol, mol, μM , mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, $^{\circ}\text{C}$.
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市(州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける(例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける(例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を()内に記す[例, (Smith, 1999)または(Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合には筆頭著者のみを表示する[例, (Smith *et al.*, 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

(例)

- Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.
- Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.
- (10) Supplemental Data : 一部のデータ(Methodの詳細, 追加データ, DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など)をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁(表題ページ)に下記の中から該当するカテゴリー(5つ以内)を選んで, 関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>) の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>) に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿は Microsoft Word ファイルまたは PDF ファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Word で作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を 1 回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

9. Executive Editors

若干名の Executive Editor をおく。Executive Editor の選考は編集委員会に設けられた Executive Editor 小委員会が行う。Executive Editor が責任著者になっている論文または Executive Editor が推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editor はこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる 2 名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦した Executive Editor の氏名が記載される。

10. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料（円／頁）	カラー写真 ^b （円／頁）
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 ^a	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

^a：4 頁目からは 16,000 円／頁。 ^b：図等も含む。

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

平成 26 年 7 月 1 日制定

Fundamental Toxicological Sciences (略称: Fundam. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質, 天然物成分およびその他の化学物質が示す毒性や様々な指標に与える影響, さらに, それら物質の安全性評価や研究手法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載するオープンアクセスの電子学術雑誌である。掲載論文は peer-review によって決定され, 原則として投稿から 2 週間以内に採用または却下の判定が下される。採用と判定され, かつ, 掲載料が支払われた論文を順次ウェブサイトに公表する。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。
- (2) Letter: 公表する価値は十分あるものの Original Article としてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicomics Report: 毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群 (または蛋白質群) に関するデータ (DNA アレイ分析の結果など) や毒性発現に影響を与える遺伝子 (または蛋白質) の同定などが該当する。DNA アレイ分析結果などは 1 つの物質について 1 論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は 1 つの遺伝子について 1 論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果 (ネガティブデータでも可) なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたものなので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview: 興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説を Review とし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説を Minireview とする。

2. 原稿の構成

A4 判に上下左右に 2cm の余白を取り, 11 ポイントの活字でシングルスペースで記述する表題頁を 1 頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第 1 頁 (表題ページ) に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title (スペースを含めて 70 文字以内), カテゴリー (下記 3 参照) を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに, 英文チェックを受けた

ネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) 及び住所を記入する。

- (2) 第 2 頁に 250 語以下のアブストラクト及び 3 ~ 6 語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Results などのサブタイトルは付けない。
- (3) 第 3 頁以後に Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, References の順番で本文を記述する。Results と Discussion をまとめて Results and Discussion として記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を () 内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, µg, mg, g, kg, µL, mL, L, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C .
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市 (州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いて A 4 判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける (例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は 1 つずつ A 4 判 1 ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける (例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめて Legends として記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を () 内に記す [例, (Smith, 1999) または (Jones and Cohen, 2003)]. 著者が 3 名以上の場合は筆頭著者のみを表示する [例, (Smith *et al.*, 2004)]. 引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾に References として一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外は Chemical Abstract に準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒理学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)

に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/fts-scied/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft Word ファイルまたはPDF ファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Word で作成した最終原稿ファイル（本文および図表）を提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。
- (3) 別刷は原則として作製しない。ただし実費での作成は可能。

9. 掲載料

掲載料は、基本料（論文1報当たり）および当該論文に含まれる総単語数と図、表、引用文献のそれぞれの数に応じた金額とする（以下の表参照）。請求書は採用決定後に責任著者宛に送付する。掲載料の支払が確認された論文のみを掲載する。迅速に掲載するために、支払いは原則としてクレジットカードのみとする。期限までに支払いが行われない論文は“採用取り消し”とする。

論文種	掲載料（消費税別）				
	基本料 （円／論文）	単語 ^a （円／単語）	図 ^b （円／図）	表 ^b （円／表）	引用文献 ^b （円／文献）
Original Article	20,000	4	2,500	3,000	150
Letter	30,000	5	2,500	3,000	150
Toxicomics Report	30,000	6	2,500	3,000	150
Review	30,000	5	2,500	3,000	150
Minireview	40,000	5	2,500	3,000	150

^a 本文（Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion）、図表の説明、および引用文献の単語数の合計。^b 論文原稿に含まれる単語、図、表、引用文献の1個当たりの金額。カラーを含む図は追加料金なしで掲載。

入 会 案 内

1. 本会に入会を希望される方は、「一般社団法人日本毒性学会定款」の内容を了承の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。
申し込みにあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。
評議員については「評議員リスト」(http://www.jsot.jp/about/list_councilor.html)をご覧ください。評議員のe-mailアドレスは評議員の先生に直接お尋ね下さい。
2. 理事長による入会の承認(定款第10条参照)が得られた後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
4. 本会の年度は5月1日から4月30日です。
5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年度の機関紙開始号であるNo.3からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
6. 年会費および会員の種別は次の通りです。

一般会員	7,000円
(ただし定款第16条に定めた評議員は10,000円)	
学生会員	3,000円
賛助会員	100,000円

(1.0口)以上(0.2口単位で増やすことができる)
*本年度入会希望の方は、4月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://sct.mtpro.jp/user/jsot/>)へログインし、手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://sct.mtpro.jp/user/jsot/>)へログインし、手続きを行って下さい。

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会教育委員会

平成 9 年 7 月 24 日制定 平成 24 年 1 月 1 日改定
 平成 15 年 7 月 19 日改定 平成 26 年 5 月 1 日改定
 平成 19 年 1 月 16 日改定 平成 26 年 6 月 17 日改定
 平成 21 年 7 月 5 日改定 平成 27 年 2 月 23 日改定
 平成 23 年 1 月 14 日改定

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は、毒性学の進歩発展、安全性試験と安全性評価の信頼性向上に資する毒性学に精通したトキシコロジストを認定するために JSOT 認定トキシコロジスト制度を設ける。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会を設置する。認定試験小委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- (1) JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- (2) 書類審査および認定試験は教育委員会が主催し、理事会の審議を経て、理事長が認定を行う。認定試験小委員会はこれらの実務を行う。
- (3) 書類審査基準は次の通りとする。
 - (イ) 出願時に JSOT の会員であること。
 - (ロ) 出願時に 6 年制大学卒業後 5 年以上、4 年制大学卒業後 7 年以上、短期大学卒業後 10 年以上、高等学校卒業後 12 年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。
 毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等に関する疑義解釈は、教育委員会が行う。

- (ハ) 別表の受験資格評点基準に従って、総合点が 80 点以上に達していること。
- (ニ) 上記のうち、基準に満たない要件がある者についても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。

- (4) 認定試験は原則として年 1 回実施し、筆記試験とする。
- (5) 受験料は 3 万円とする。
- (6) 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

- (1) 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は 2 万円とする。
- (2) JSOT 認定トキシコロジストに適格でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後 5 年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. 名誉トキシコロジスト

別途細則に定める要件を満たした者を名誉トキシコロジストとして表彰する。

7. その他

この規程の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 27 年 2 月 23 日改定の本規程は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 ¹⁾
論文	毒性学関連論文 ²⁾		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学術年会 毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	10 / 回 5 / 回	10 (5) / 回
講習会等	基礎教育講習会 JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	40 / 回 5 / 回	

- 1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については 10 点、それ以外の共同発表の場合は 5 点とする。
- 2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- 3) IUTOX 定期総会（ICT）、ASIATOX 定期総会、SOT 年会、EUROTOX 年会、日本安全性薬理研究会、日本衛生学会、日本環境変異原学会、日本産業衛生学会、日本獣医学会、日本実験動物学会、日本製薬医学会、日本先天異常学会、日本中毒学会、日本毒性病理学会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本免疫毒性学会、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬理学会
- 4) JSOT 生涯教育講習会等

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

一般社団法人日本毒性学会教育委員会

平成 12 年 6 月 29 日制定
平成 15 年 7 月 19 日改定
平成 19 年 1 月 16 日改定
平成 21 年 7 月 5 日改定
平成 23 年 1 月 14 日改定
平成 24 年 1 月 1 日改定
平成 24 年 7 月 5 日改定
平成 24 年 12 月 12 日改定
平成 26 年 5 月 1 日改定
平成 26 年 6 月 17 日改定
平成 27 年 2 月 23 日改定

- 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき制定されたものである。
- 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
- 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - 資格更新申請時において、過去 5 年間継続して JSOT 会員であること。
 - 資格更新申請時において、過去 5 年間に以下に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - 資格更新申請時において、以下の評点基準のカテゴリー II に定める学会に、過去 5 年間に 1 回以上参加していなければならない。但し、65 歳以上の場合、あるいは特別な事情により理事長が認めた場合に限り本基準は免除される（本基準項目は、平成 26 年の更新該当者から適用する）。
 - 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した問題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80%以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては 1 回を限度に再試験を行い、その結果正答率が 80%以上に達した場合には合格とする。
- 理事長は資格更新申請を受け、教育委員長に審査を委嘱する。審査の実務は認定試験小委員会が行う。
- 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を、教育委員長を経て理事長に答申する。
- 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
- 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料を学会に納入する。
- 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
- 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
- 65 歳以上（該当年の 12 月 31 日現在）の時点で認定トキシコロジストの有資格者であり、且つ 15 年以上の認定資格歴のある者は、「名誉トキシコロジスト」としての表彰を受けることができる。名誉トキシコロジスト表彰については別途細則にて定める。
- 本細則の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則：平成 27 年 2 月 23 日改定の本細則は同日から施行する。

評点基準

カテゴリー	評点項目	評点	上限（5年間）
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 学術年会 参加 / 発表 毒性学に関連する学会 ¹⁾ の学術年会 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 主催・公認講習会等 ²⁾ （講師を含む）	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 ³⁾	5 / 編	25

¹⁾ IUTOX 定期総会（ICT）、ASIATOX 定期総会、SOT 年会、EUROTOX 年会、日本安全性薬理研究会、日本衛生学会、日本環境変異原学会、日本産業衛生学会、日本獣医学会、日本実験動物学会、日本製薬医学会、日本先天異常学会、日本中毒学会、日本毒性病理学会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本免疫毒性学会、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬理学会

²⁾ JSOT 基礎教育講習会・JSOT 生涯教育講習会等

³⁾ レフリー制度が整っている学術誌に限る

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員]

塚田 裕三	石川 栄世	今道 友則	堀口 俊一
亀山 勉	福田 英臣	柳田 知司	池田 正之
加藤 隆一	白須 泰彦	黒岩 幸雄	井村 伸正
佐藤 哲男	林 裕造	渡辺 民朗	高橋 道人
榎本 眞	小野寺 威	遠藤 仁	菅野 盛夫
黒川 雄二	鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄
長尾 拓	福島 昭治		

[功労会員]

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	上野 芳夫
安田 峯生	菊池 康基	田中 悟	大沢 基保
今井 清	降矢 強	玄番 宗一	松澤 利明
唐木 英明	飯家 公夫	暮部 勝	津田 修治
野村 護	牧 栄二	堀井 郁夫	大野 泰雄
山添 康	吉田 武美	上野 光一	三森 国敏

[役員] (2014～2015年度)

理事長	眞鍋 淳		
理事	青木 豊彦	天野 幸紀	上野 光一
	小野寺博志	鍛冶 利幸	菅野 純
	北嶋 聡	熊谷 嘉人	佐藤 雅彦
	関 二郎	苗代 一郎	西川 秋佳
	久田 茂	姫野誠一郎	広瀬 明彦
	務台 衛	横井 毅	吉田 緑
監事	和久井 信	落合 敏秋	佐神 文郎

[学術年会長]

第43回 (2016年) 佐藤 雅彦
第44回 (2017年) 熊谷 嘉人

[委員会] (2014～2015年度)

- 総務委員会
 - ◆連携小委員会
 - ◆評議員選考小委員会
 - ◆名誉会員および功労会員選考委員会 (2015年度)
- 財務委員会
- 編集委員会
 - ◆JTS編集委員会
 - ◆FTS編集委員会
 - ◆Executive Editor 小委員会
- ◆田邊賞選考小委員会 (2015年度)
- 教育委員会
 - ◆生涯教育小委員会
- ◆基礎講習会小委員会
- ◆認定試験小委員会
- 学術広報委員会
 - ◆学会賞等選考小委員会
 - ◆学会特別賞等選考小委員会
 - ◆技術賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆望月喜多司賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆日化協 LRI 賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆学術小委員会
 - ◆広報小委員会
- ★その他関連の委員会
 - IUTOX President-elect
 - IUTOX 担当
 - ASIATOX 担当

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

北嶋 聡	(委員長)		
青木 豊彦	鍛冶 利幸	菅野 純	純
熊谷 嘉人	眞鍋 淳	務台 衛	衛
菅野 純	(委員長)		
中村 和市	広瀬 明彦		
横井 毅	(委員長)		
小川久美子	佐藤恵一朗	津田 修治	
遠山 千春	(委員長)		
北嶋 聡	(委員長)		
青木 豊彦	(委員長)		
関 二郎	(委員長)		
鍛冶 利幸	(委員長)		
鍛冶 利幸	(委員長)		
永沼 章	(委員長)		
永沼 章	(委員長)		
鍛冶 利幸	堀井 郁夫	吉田 武美	
野村 俊治	(委員長)		
(副委員長以下非公開)			
務台 衛	(委員長)		
鈴木 雅実	(委員長)		
五十嵐勝秀	石塚真由美	於勢 佳子	
鈴木 睦	姫野誠一郎	義澤 克彦	
小野寺博志	(委員長)		
尾崎 博	(副委員長)		
朝倉 省二	桑原 正貴	古川 賢	
宮本 索	和久井 信		
久米 英介	(委員長)		
(副委員長以下非公開)			
熊谷 嘉人	(委員長)		
吉田 武美	(委員長)		
(委員非公開)			
永沼 章	(委員長)		
久田 茂	(委員長)		
(委員非公開)			
永沼 章	(委員長)		
(委員非公開)			
熊谷 嘉人	(委員長)		
(委員非公開)			
苗代 一郎	(委員長)		
佐藤 雅彦	吉田 緑		
久田 茂	(委員長)		
姫野誠一郎	(副委員長)		
伊藤 志保	橋本 愛		
永沼 章	(相談役)		

2015年8月1日 印刷

2015年8月1日 発行

発行人 眞鍋 淳

編集人 鍛冶 利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30

イタリア文化会館ビル8F

株式会社メディカルトリビューン内

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 3239-7264 FAX (03) 3239-7225

E-mail : jsotq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

http://www.jsot.jp

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161